令和8年度

中学校A日程入学試験問題

国　語

受験上の注意

◎ 時間……50分

◎ 解答はすべて、別紙解答欄(らん)に記入すること。

◎ 字数制限のある場合、句読点、カギなどの記号も字数に入れるものとする。

第一問題　次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

【祖父が亡くなったことによって、「夏木書店」の管理を引き受けることになった本好きの高校生「林太郎」。そんな林太郎の前に本を守るため、不思議な世界（迷宮）と現実の世界を行き来し、人の言葉を話すトラネコの「トラ」が現れる。トラは林太郎を本の文化を大事にしない者たちのいる迷宮に連れていき、その人たちを説得してくれるように求める。柚木沙夜は林太郎のクラスの学級委員長であり、林太郎ともにトラの姿を見ることのできる数少ない存在である。この場面は迷宮のなかで売れ筋の本ばかりを作り、それを売りさばく会社の社長である男と林太郎との対話のシーンである。】

「注1真理も注2倫理も注3哲理も、誰も興味がないんです。みんな生きることにくたびれていて、ただただ刺激と癒しだけを求めているんです。そんな社会で本が生き残るためには、本そのものが姿を変えていくしかない。敢えて言いましょう。売れることがすべてなのだと。どんな傑作でも、売れなければ消えるんですよ」

林太郎は軽いめまいを覚えて、額に手を当てた。その手でそっと眼鏡の縁に触れてみたが、いつものようにまとまりのある思考は生まれてこなかった。相手の言葉は、あまりに林太郎の想定の外にあったからだ。

本の魅力や価値について語るのであれば、林太郎はいくらでも話せるつもりでいた。

しかし①目の前の男が提示した本の価値は、林太郎の考えたこともないものであった。最初から見つめている世界がまったく違うのだ。

「大丈夫よ、夏木」

ふいに聞こえた声は沙夜のものであった。

林太郎は左腕に力強い気配を感じてそばを注4顧みた。いつのまにか注5傍らに歩み寄った沙夜が、林太郎の腕をしっかりとつかんでいる。

「大丈夫よ」

「あんまり大丈夫な感じはしないんだけれど」
「それでも大丈夫」
沙夜は、じっと机の向こうの男を睨んだまま動じない。
「あの人の言っていることはおかしい。それは間違いない」
「おかしいとは僕も思う。けれども理屈は通っている」
「理屈の問題じゃないわ」
沙夜はなおはっきりと告げる。
「理屈とか論理とかはよくわからない。けれどもあの人の言葉は不自然」
はっとして林太郎は沙夜の横顔を見た。
と同時に、いつかのトラネコの言葉が脳裏に響いた。
〝この迷宮では、真実の力がもっとも強い。だがすべてが真実ではない。必ずどこかに嘘がある〟
その通りだと林太郎はうなずいた。
男の言葉のあまりの過激さに、林太郎は呑まれていた。確かに衝撃的であったが、しかしそこにはなにか奇妙な違和感が漂っている。
林太郎は眼鏡の縁にもう一度手を当てた。
「考えても無駄ですよ、夏木林太郎君」
社長の 注6 悠々たる声が響く。
声とともに、濃厚な煙草の煙が舞い上がる。
「君はまだ若い。②受け入れたくない現実というものもあるでしょう。でも私は、世の中の仕組みというものをよく知っている。本の価値を決めるのは君の感動の深さではない。発行部数なのです。つまり現代においては、コインがすべての価値の 注7 裁定者だ。このルールを忘れて理想に走る者は、社会から脱落していくしかない。哀しいことですけどね」

注8 諄々と説くような、独特の厚みを持った声。

それはあからさまに林太郎の思考を遮ろうとする。けれども覚束ないその思考を支えるかのごとく、沙夜の手がしっかりと林太郎の腕を握っている。

社長が静かに笑う。

林太郎は懸命に考える。

考えに考えて、ようやく一歩進んだかと思えば、a たちまち社長の笑い声と不快な煙草の臭いが、深い靄のように立ち込める。b それでも林太郎は靄をかき分けるようにして歩き続ける。立ち止まることだけはしない。

「たしかに夏木書店は、ちょっと変わった古書店です」

林太郎は大きな机の向こうに座る、圧倒的な対話相手を見返した。

「お客さんも少ないし、本だってあんまり売れません。でもとても特別な場所です」

「失望、という言葉があります」

社長がこれ見よがしに首を左右に振った。

「今の私の心境にぴったりの言葉です。君の個人的な感傷など、どうでもよい」

「個人的なんかじゃありません。あそこに来る人たちはみんな僕と同じものを感じていました。あの小さな古書店には、じいちゃんの特別な思いがあふれていて、敷居を跨げば誰もがそれを感じとることができました。だからこそ特別な場所だったんです」

「まことに 注9 漠然として観念的だ。それでは誰も納得させることはできません。もしよければ、おじいさんの特別な思いとやらについて、もう少し具体的に教えていただけませんか？」

「教える必要なんてありません。③あなたと同じなんですから」

林太郎がごく静かに投げ出した言葉に、社長は動きを止めた。止めたまま、容易に動き出さなかった。

社長の指先から立ち上る煙がゆっくりと細くなり、やがて途絶えた。

社長はわずかに目を細め、唇を動かした。

「私には君の言っている言葉の意味が、よくわかりませんね」
「それも嘘ですよ」
男の白い眉がぴくりと動く。
「あなたは先ほど、本は消耗品だと言いました。本が好きなどと言っていては、できない仕事だと言いました」
「その通り」
「④嘘ですよ」
林太郎の強い声が響いた。
煙草の灰がぽとりと灰皿に落ちた。
「あなたはさっき言ったじゃないですか。生き残るために本は姿を変えていくしかないんだと。それはつまり、本が生き残ってほしいという思いがあるからではないんですか？　本をただの消耗品だと思っているなら、そういう言葉は出てこないはずです」
「微妙な理屈を言いますね」
「微妙なところが大事だからです。本をただの紙屑だと思っているなら、こんな仕事やめてしまえばいい。けれども、あなたは本を生き残れる形に変えていくことに全力を尽くしている。あなたは本が好きなんです。だから必死になってそこに座っているんです。僕のじいちゃんと同じように」
林太郎の声が途切れると同時に、重い沈黙が舞い降りた。
室内は静まりかえり、ただときおり窓の外を思い出したように音もなく本が落ちていく。明らかに散っていく本の数が減っている。
⑤社長はしばし林太郎を見つめ返していたが、やがてゆっくりと椅子をめぐらして注10荒涼たる窓外の景色へ目を向けた。
「どうでも良いことです」
ようやく漏れた言葉はそれであった。
「論点を変えてはいけません。私の思いがどこにあろうと、現実を直視しなければいけません。c本は痩せ細っていく。⑥痩せ細っ

た本に人々は群がる。群がる人々に、本もまた応えようとする。そのサイクルはもはや誰にも止められない。どれほど特別な思いがあっても、夏木書店に来る客が、減っていく一方であったことが何よりの証拠ではありませんか」

「勝手なこと言わないでよ」

風を切るような爽やかな声が部屋に響いた。

社長も林太郎も同時に声の主を顧みた。

林太郎の傍らに立つ沙夜が、いつもの活力に溢れた張りのある声を響かせた。

「夏木書店の客が減っていくばかりだなんて、勝手に決めつけないでほしいわ。お店にはね、秋葉先輩っていう性格はいまいちだけど頭のいい常連客がいるし、今じゃ私だってお客さんのひとりよ」

胸を張って言うほどのことではない。ないにもかかわらず、その声はどこまでも涼しく、そして迷いがない。

「しかし」と社長は動じない。

「その程度の客商売では儲けにはなりません。売れなければ意味がない。本屋は注11慈善事業じゃないんです」

「では、いくら儲かれば、あなたは満足するんですか？」

「いくら？」

林太郎の思わぬ問いに、社長は軽く目を見開いた。

「じいちゃんがよく言っていました。お金の話を始めると際限がなくなってしまうと。百万あれば二百万がほしくなる。一億あれば二億がほしくなる。だからお金の話はやめて、今日読んだ本の話をしようって。僕だって、本屋が儲からなくてもいいだなんて思っていません。でも、儲かることと同じくらい大事なことがあることは知っているつもりです」

d心に浮かぶ言葉を、ひとつずつ掬い上げるようにして口に出していく。説き伏せる態度でもなく、言い聞かせる語調でもない。⑦ただ思いを伝えるための対話である。

「あなたが本をつくる人なら、たとえどんなに思い通りにいかないことがあっても、本を消耗品だなんて言っちゃだめなんです。ちゃんと大きな声で言うべきですよ。自分は本が好きなんです、と」

違いますか、と問う林太郎を、社長は注12身じろぎもせず見返していた。

⑧机の上に手を組んだまま、何かまぶしいものでも見つめるように目を細めた。

「私が仮にそう言ったとして、何か変わりますか？」

「変わります」

林太郎の返答は早かった。

「本が好きだと言った以上は、好きじゃない本はつくれなくなります」

⑨社長は軽く目を見開いてから、わずかに唇の端を動かした。

それが苦笑なのだと気がつくのに、少しの時間が必要であった。

いつのまにか窓外を舞い落ちる本が見えなくなっていた。まるで時間が止まったように、すべてが静寂の中にあった。

「とても苦労しますよ。その生き方は」

ようやく答えた社長の目が正面から林太郎を見つめていた。

林太郎も目をそらさなかった。

「本を消耗品だなんて言いながらそこに座っているのも苦労だと思います」

「なるほど……」

社長が小さくつぶやいたとき、唐突に部屋の扉が開いて受付の女性が顔を出した。

そろそろお時間です、と告げる女性を、社長は軽く片手を上げただけで下がらせた。

なお沈黙のまま注13微動だにしなかった社長は、やがてゆっくりと右手を伸ばして扉を示した。女性が出て行ったばかりの重厚な扉が、今度は音もなく大きく左右に開き、エレベーターへ続く赤い絨毯が目に入った。

あくまでも言葉はない。

林太郎は沙夜と顔を見合わせ、それからそっと机に背を向けて歩き出したところで、背後から声が追い付いてきた。

「君の［　　］を祈っています」

林太郎は振り返り、机の向こうに座る男に目を向けた。
白い眉の下に光る二つの瞳（ひとみ）は、相変わらず感情の読み取りにくい静かな光をたたえて林太郎を見返していた。
一拍を置いて、林太郎は答えた。
「あなたも」
そんな返答を、おそらく社長は予期していなかったのであろう。軽く目を見開いてから、今度ははっきりと口元を緩（ゆる）めた。
思いの外に優しげな苦笑が垣間見（かいまみ）えた。

（夏川草介『本を守ろうとする猫の話』より）

注1　真理　…だれも否定できない正しい道理。
注2　倫理　…人として守るべきもの。
注3　哲理　…人が生きるうえで根本にかかわる奥深い道理。
注4　顧みた　…ふり返って見た。
注5　傍ら　…物や人のそば。
注6　悠々たる　…ゆったりと落ち着いた様子。
注7　裁定者　…最終的な決定や判断を下す人。
注8　諄々と　…くり返し、ていねいに。
注9　漠然として観念的　…中身がはっきりせず、頭の中だけで考える様子。
注10　荒涼たる　…人けのないさびしい様子。
注11　慈善事業　…困った人を助けるために行う活動のこと。
注12　身じろぎもせず　…全く動かずに。体を動かすことなく。
注13　微動だにしなかった　…わずかな動きさえしなかった。

問一　――線①「目の前の男が提示した本の価値は、林太郎の考えたこともないものであった」とありますが、「男」は本の価値をどう考えていますか。次の文の［1］・［2］に当てはまる言葉を、本文中からそれぞれ五字以内で抜き出して答えなさい。

●本の価値は［1］ではなく［2］が多いことで決まるものだ。

問二　――線②「受け入れたくない現実」とありますが、それは林太郎にとって本がどうなるという現実ですか。［　　］に当てはまる言葉を、本文中から二十字以内で抜き出し、初めと終わりの三字を答えなさい。

●［　　］という現実。

問三　～～部a～dの文について後の問いにそれぞれ答えなさい。

（1）一つだけ他と異なる表現技法を用いたものを、a～dから選び記号で答えなさい。

（2）（1）で選んだ記号に用いられている表現技法として最も適当なものを、次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア、直喩（ゆ）法
イ、反復法
ウ、擬（ぎ）人法
エ、倒置（とう）法

問四　――線③「あなたと同じ」とありますが、林太郎の考える「じいちゃん」と「社長」に共通する思いを、本文中から十五字以内で抜き出して答えなさい。

問五　――線④「嘘ですよ」とありますが、林太郎が社長が嘘をついていると判断したのは、社長のどのような行動からですか。最も適当なものを、次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア、本を消耗品と言いながら、本が生き残るための仕事をしていること。
イ、本に対する林太郎の話を、聞き流していること。
ウ、本を作る仕事をしながら、会社から本を投げ捨てていること。
エ、本を消耗品だと思って、夏木書店を小ばかにしていること。

問六　――線⑤「社長はしばし林太郎を見つめ返していたが、やがてゆっくりと椅子をめぐらして荒涼たる窓外の景色へ目を向けた」とありますが、なぜですか。最も適当なものを、次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア、社長にとって意識するほどの存在でもない林太郎よりも、窓の外の景色の方が気になって仕方がないから。

イ、社長は完全に林太郎に言い負かされたと感じ、自分の表情を見られたくないと思ったから。

ウ、社長は林太郎の意見を一部理解しているが、現状を考えると全てに同意はできないから。

エ、社長にとって林太郎の意見はばかばかしすぎて、林太郎の顔を見ていられないくらいにあきれたから。

問七　――線⑥「痩せ細った本」とありますが、どのような本のことを言っていますか。最も適当なものを、次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア、売れることだけを目指した、たやすく読める内容がうすい本。

イ、値段は安いが、わずかな人にしか感動を与えられない本。

ウ、経費を減らすためにページ数を少なくし、うすくなってしまった本。

エ、発行部数も多く、多くの人に深い感動を与えることのできる本。

問八　――線⑦「ただ思いを伝えるための対話である」とありますが、林太郎はどのような態度で対話をしようとしていますか。最も適当なものを、次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア、社長の主張はすべて正しいので、受け入れようとする態度。

イ、社長の意見は完全に間違いなので、説き伏せようとする態度。

ウ、社長の意見を改めてもらおうと思い、説得しようとする態度。

エ、社長の主張は理解しながらも、自分の信念は曲げないようにしようという態度。

問九　――線⑧「机の上に手を組んだまま、何かまぶしいものでも見つめるように目を細めた」とありますが、この時の社長の気持ちとして最も適当なものを、次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア、林太郎の本に対しての考えが、自分の予想とちがって理屈に合っていることにおどろく気持ち。

イ、林太郎の本に対するまじめな態度に若々しさを感じ、いまいましく思う気持ち。
ウ、林太郎の本に対するあまりにも純粋な思いに触れ、少しずつ受け入れようとする気持ち。
エ、林太郎の本に対しての意見が未熟だと感じ、昔の自分を思い出しなつかしむ気持ち。

問十　――線⑨「社長は軽く目を見開いてから、わずかに唇の端を動かした」とありますが、社長はなぜこのような表情をしたのですか。最も適当なものを、次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア、林太郎の発言のするどさにおどろいたが、林太郎のいうとおりになるほど本の現状は甘くないと思ったから。
イ、林太郎のまっすぐな気持ちを受け止め、本の厳しい現状を乗りこえるための力を与えてやろうと思ったから。
ウ、林太郎の考え方に従って行動すれば、本の厳しい現実は解決すると考え、素晴らしいことだと感動したから。
エ、林太郎の意見は大変子どもっぽいものであり、本の厳しい現実をまったく知らないと軽く見たから。

問十一　［　　］に当てはまる言葉として最も適当なものを、次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア、健闘（けんとう）
イ、失敗
ウ、挫折（ざせつ）
エ、進展

第二問題　次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

皆さんは、甘いものがお好きでしょうか？　私は大好きです。甘みや糖分は栄養・エネルギー源になるだけでなく、疲れた精神に注1慰みと喜びを与えてくれます。それはどうしてでしょうか？　その問いに答えることはA容易ではありませんが、実際、人類は歴史の進展とともに、一貫して糖分摂取をB増加させ、最近にいたるまで、その上昇はとどまることを知りませんでした。

C、甘いものの代表格である「お菓子」は、いつどこでどのようなものが作られたのでしょうか。また、いろいろとある食べ物のなかで、それはどんな位置を占めているのでしょうか。そして、歴史とどう関わっているのでしょうか。こうした問題は、あらゆる国・地域のお菓子について考えてみることができるでしょう。D、私の信じるところでは、ほんとうに歴史を映す鏡として、社会や文化の重要な要素として、それらを象徴するものとなっているのは、フランス菓子だけだと思うのです。「それは、あなたがフランスびいきだからでしょ」と言われてしまえば、そうかもしれませんが、本書を読んでいただいて、皆さんにもE納得してもらおうと思っています。

①世界中に数あるお菓子やケーキ――最近ではスイーツという用語が流行になっていますが、フランス語ではパティスリーといいます――のなかでも、フランス菓子がやはり一番だ、というイメージは、皆さんのなかにもあるのではないでしょうか。東京や神戸で、つぎつぎ出店するパティシエのお店は、ほとんどがフランス菓子屋ですし、注2デパ地下を注3五色に甘く美しく彩っているのも、フランス菓子です。フランスで修業したパティシエの動向がテレビや雑誌で特集され、彼らが作る創作菓子にもフランス風の名前がつけられます。もちろんドイツ、イギリス、イタリア、アメリカなどにも有名でそれなりにおいしいお菓子はあるのでしょうが、「カントリー風」などと注4銘打っていても、フランス菓子の横に並べてみると、なんだか冴えない②引き立て役に思えてしまうのは私だけでしょうか。

「和菓子、とくに京都の和菓子を忘れていないですか」という声がどこかから聞こえてきそうです。たしかにそうですが、これについてはまったく別の角度から論じなくてはなりませんし、日本においても、フランス菓子と和菓子とは、食べる機会や役割がうまく棲み分けられていて、対抗関係にはないので、本書では触れないことにします。

この「お菓子はフランスが一番だ」という認識は、フランス人だけでなく、世界中で共有されています。なぜ、そうなったので

しょうか。これを理解することは、とりもなおさず、フランスという国、その歴史を理解することにほかなりません。カギは、フランス文化の成り立ちと、文化的世界戦略にあります。

お菓子というのは、ファッションや注5社交儀礼とおなじように、その土地の文化の注6精華のひとつです。それが精華になりえたのは、生きるために不可欠な食べ物ではないから、社会関係や文化の注7潤滑油・調整の道具として、余分なものとして付け加わったからです。だからお菓子は、地位や権力だけでなく、遊びやしゃれっ気とも結びつくのです。

塩や水なしに人間は生きられません。だから塩や水をめぐっては、政治的・経済的な力がはたらきます。それをはさんで、支配や注8隷属という関係が生まれるのです。たとえば、カール・ウィットフォーゲルというアメリカの中国研究者は、水を治めること、すなわち注9灌漑・水利こそが、注10専制主義的な国家の起源だと述べています。また「塩税」はどこでもありふれたものでしたし、ローマ時代には、役人や軍人に支給される注11俸給として、塩が用いられたこともあります。

しかし甘味料つまり砂糖は、注12香辛料とおなじように、生きるために必要というわけではありません。それはむしろより良く生きるために必要なものなのです。だから、甘いもの、そしてお菓子は、さしあたり、政治的・経済的な支配ではなく、文化的な支配の力関係のなかに取り込まれることになりました。文化的な価値であるがゆえに、③人々は甘いものに［F］になるのです。そのことをまず押さえておきましょう。

それから、ケーキ（フランス語でガトー）にせよ、チョコレート（ショコラ）にせよ、アイスクリーム（グラス）にせよ、甘いものは、肉やご飯のように主菜・主食として食べられるわけではなく、食間のおやつとか食後のデザートといった、④食事体系のすみっこに追いやられています。おやつもデザートも、なくてもよいようなものですが、ないと寂しいとか、物足りないとか、楽しさが欠けるとか、そんな思いになるでしょう。まさに注13画竜点睛を欠くのです。またお母さんとの、あるいは恋人・友人や家族との、⑤特別な「思い出」につながっているお菓子も、少なくないでしょう。

すみっこにある余分なものだからこそ、お菓子には、生活に注14甘美なうるおいを与え、幸せな注15感興をわきおこす不思議な力があるのですし、また、そうした力を発揮させるような多様な工夫が、たえず加えられつづけてきたのです。あたかも、労働と

対立する余分なものである遊びが、単調な生活に張りを与え、生きる喜びをもたらしてくれるようにです。

そしてこの「余分なもの」を、いかに 注16 丹精込めてつくりあげ大切にするかが、文化の質を測るひとつの基準となるのではないでしょうか。しかも驚くべきことに、歴史を遡ってみると、洗練されたお菓子たちは、いつでも文明の 注17 伝播ルートを忠実に伝って、文明度の高いところから低いところへ、東から西へ、西から東へと、各地に甘い夢を運んできたのです。

（池上俊一『お菓子でたどるフランス史』より）

注1　慰み　…心を楽しませるもの。また、その手段。
注2　デパ地下　…日本の百貨店（デパート）の食品売り場を指す。たいてい地下にある。
注3　五色　…ここでは、さまざまな種類。
注4　銘打つ　…名前をつけて宣伝すること。
注5　社交儀礼　…人と人がつき合う上で、気を付けるべきマナーやルールのこと。
注6　精華　…その物の本当の素晴らしさを知るための、代表的な長所。
注7　潤滑油　…機械がスムーズに動くための油のことを例えて、物事がスムーズに進むためのものや人を指す。
注8　隷属　…他からの支配を受けて、その言いなりとなること。
注9　灌漑・水利　…農地へ水を人工的に供給すること。
注10　専制主義的　…一人または一つの集団・階級が権力をもって支配する独裁政治のようなもの。
注11　俸給　…一定期間（通常は月）ごとに支払われる給料のかたちのこと。
注12　香辛料　…香りや辛さを加える調味料。スパイス。
注13　画竜点睛を欠く　…物事をりっぱに完成させるための最後の仕上げを忘れること。
注14　甘美　…心地よくうっとりとさせること。
注15　感興　…おもしろみ。

注16　丹精込めて　…まごころこめて。
注17　伝播　…伝わり、広まること。

問一　線A「容易」と同じ意味の言葉を二字の熟語で答えなさい。

問二　線B「増加」と反対の意味の言葉を二字の熟語で答えなさい。

問三　本文中の［C］・［D］に当てはまる最も適当な語を、次のア～カから選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア、また
イ、つまり
ウ、しかし
エ、そして
オ、さて
カ、だから

問四　線E「納」の矢印で示した黒い部分は何画目になりますか。漢数字で答えなさい。

問五　――線①「世界中に数あるお菓子やケーキ――最近ではスイーツという用語が流行になっていますが、フランス語ではパティスリーといいます――のなかでも、フランス菓子がやはり一番だ、というイメージは、皆さんのなかにもあるのではないでしょうか」とありますが、筆者はどのようなことから「フランス菓子はやはり一番だ」というイメージになったと考えていますか。最も適当なものを、次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア、フランスびいきのパティシエが作る創作菓子にフランス風の名前をつけ、都会ではおしゃれなフランス菓子屋で、高級なフランス菓子がたくさん売られていること。

イ、デパ地下のお菓子売り場では、東京や神戸で出店している菓子屋の色とりどりの洗練されたフランス菓子がたくさんあり、京都の和菓子よりも多く売られていること。

ウ、東京や神戸などの都会でたくさんのフランス菓子屋ができたため、フランスで修行したパティシエのお菓子の方が安いうえにおいしく、和菓子よりも食べる機会が多いこと。

エ、フランスで修行したパティシエの様子がテレビや雑誌で取り上げられ、都会では次々にフランス菓子屋ができ、デパ地下では色とりどりのフランス菓子が売られていること。

問六　――線②「引き立て役」とありますが、誤った使い方をしている文を、次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア、どんなアクセサリーも、彼女の前では引き立て役となってしまう。

イ、しょっぱい塩は、スイカの甘みを強くする引き立て役となっている。

ウ、優勝した彼は、広島で開かれた全国大会の引き立て役となった。

エ、彼が弾くピアノの音色は、彼女の歌声の引き立て役となっていた。

問七　――線③「人々は甘いものに［F］になる」とありますが、［F］に合う言葉を、次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア、冷静

イ、夢中

ウ、専念
エ、不安

問八　――線④「食事体系のすみっこに追いやられています」とありますが、どういうことですか。主語をはっきりさせて、本文中の言葉を使って五十字以内で答えなさい。

問九　――線⑤「特別な『思い出』につながっているお菓子」とありますが、お菓子が特別な思い出につながる理由を次のようにまとめました。［G］・［H］にあてはまる言葉を、本文中からそれぞれ抜き出して答えなさい。

・甘いものは、絶対に必要なものではなく、［G（七字）］ためのものである。
・政治的・経済的な価値ではなく、［H（六字）］がある。
・生きる喜びをもたらし、生活にうるおいを与え、幸せな気持ちにさせる不思議な力がある。

問十　次の文は本文を読んだ崇さんたちの会話である。会話文を読んで次の問いに答えなさい。

珠さん「フランス菓子もおいしいけど、和菓子を食べたい時ってどんな時がある？」
崇さん「わたしの学校では大切な行事の時におまんじゅうが出るよ。いつも楽しみなんだよね。」
徳さん「特別な感じがしていいね。あとは、［I（二字）］に関係するものもあるよね。わたしは桜もちが好き。桜のかおりと、葉っぱが甘じょっぱいのがいいんだよね。」
珠さん「私はお月見のお団子が大好き。きなこやあんこがあるとおかわりしてしまうよ。」
徳さん「暑いとか寒いとかだけでなく、和菓子のような甘いもので［I］を感じることができるのが日本らしくていいね。」
崇さん「なくてもいいけど、あればよりよいっていうのが分かった気がするよ。」
徳さん「音楽を聞いたり、映画を見たりすることと似ているね。」
珠さん「確かに。勉強が終わったら甘いものを食べながら音楽をきこうかな。」
仁さん「そういうゆとりが［J（八字）］につながるんだね。」

（1）会話文について［I］に合う言葉を漢字二字で考えて答えなさい。
（2）会話文について［J］に合う言葉を本文中から八字で抜き出して答えなさい。

第三問題　次の――線部の文字や言葉の使い方が正しければ「〇」を解答欄に記入し、間違っていれば正しく訂正しなさい。

① 国語の授業はおもしろいので、いつも短かく感じる。

② チーム全員が一心同体となり、勝利をつかむことができた。

③ 「縮む」はひらがなで「ちじむ」と書く。

④ 明日、大学の教授が本校へお見えになる。

⑤ 先生に引卒された生徒たちが、博物館へと向かった。

第四問題　次の会話文を読んで、後の問いに答えなさい。

生徒Ａ「国語って勉強しなきゃいけないのかなあ？」

生徒Ｂ「わかる。だって今、日本語使えてるしね。」

先生　「二人ともどうしたの？」

生徒Ａ「国語ってどうして勉強しなきゃいけないんですか？」

先生　「国語は正しく日本語を理解するために必要ですよ。」

生徒Ａ「正しくってどういうことですか？」

先生　「いっしょに考えてみましょうか。例えば、『私は食パンを食べながら走る兄を見た。』という文を読んで、何か気になることはないでしょうか？」

生徒Ｂ「①このままだと食パンを食べたのが私なのか兄なのかわかりづらいです。」

先生　「そうですね。句読点がないとわかりにくいですね。」

生徒Ａ「本当だ。正しく理解するって難しいですね。よし、②私の目標は、国語を学んで言葉を使いこなせるようになりたいです。」

生徒Ｂ「ん？今の言葉づかい、おかしくない？」

先生　「言葉を正しく使わないと、自分の考えが思っている通りに相手に伝わらないんですね。」

問一　――線①「このままだと食パンを食べたのが私なのか兄なのかわかりづらいです」とありますが、「食パンを食べたのが私なのか」「食パンを食べたのが兄なのか」が、はっきりとわかるように読点（、）を一つ打つとしたらどこですか。最も適当な場所を、次のア～オから選び、それぞれ記号で答えなさい。

●　私は〈ア　食パンを〈イ　食べながら〈ウ　走っている〈エ　兄を〈オ　見た。

問二　――線②「私の目標は、国語を学んで言葉を使いこなせるようになりたいです」とありますが、主語と述語が正しく対応するように、「使いこなせるようになりたいです」の部分を書き直しなさい。

問三　あなたが国語を学んでよかったと思うことを、具体例をあげて答えなさい。

令和八年度

中学校A日程入学試験問題　解答欄（らん）〔国語〕

第一問題

問一　1　2

問二　～　という現実。

問三　（1）　（2）

問四

問五　問六　問七　問八　問九

問十　問十一

第二問題

問一　問二　問三　C　D

問四　画目　問五　問六　問七

問八

問九　G　H

問十　（1）　（2）

第三問題

①　②　③　④　⑤

第四問題

問一　私　兄

問二

問三

受験番号	
名前	
※得点	

中国

※印欄には記入しないこと